

## 【成果報告】

本研究では、持続可能な共生社会の実現に言語教育の側面から寄与することを目的とし、児童が小学校での学びに必要な語を学ぶことができるように、小学校第一学年から第六学年までの教科学習の根幹となる基本語の選定を行う調査を実施し、教育機関で利用可能なアプリケーション型の教材開発を通じた社会課題解決のための実証的研究に取り組んでいる。

2023年度は、小学校国語教科書の掲載語彙のうち、出現頻度の高い語を抽出し、習得をサポートするためのアプリケーション型教材のクイズアイテムを作成した。特に第三学年・第四学年の低学年の作問を行い、児童が「朝の時間」の10-15分程度を利用して、日本語を母語とする児童もそうでない児童も共に学ぶための教材配信を行なった。

本研究では、基盤とするデータベースを用いて、アプリのクイズに加え、NHK for schoolの動画の利用なども検討した。NHK for schoolの動画を用いた教育実践（横浜市立潮田小学校）の様子は、NHKの「ようこそ！楽しい学びの入り口へ」にて放送された。アプリケーション型教材や動画教材は、児童の日本語に対する理解を深める効果があり、また、DXが進む教育現場での親和性も極めて高い。今後も検討を続けていきたいと考えている。

本研究によって児童が学習する上で助けとなる学習基本用語が明らかになり、そのための学習ツールが設けられることは、これまで別室で学ぶ他なかった、あるいは、学校に通えなかった帰国・外国人児童が、日本語母語児童・日本国籍児童と共に学ぶ道を拓くものであり、日本で学ぶ全ての児童が等しく学習機会を得る国語教育の拡充に寄与したいと考えている。とりわけ、SDGsの大目標である「質の高い教育をみんなに」、および、中項目である「公平で質の高い教育を無料で受け、小学校と中学校を卒業できるようにする。」「読み書きや計算ができるようにする。」に関連し、特に「だれも取り残されないような学習のための環境をとどける。」という理念実現に資するものとなることを目指している。

